

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

| | |
|-------|-------------------|
| 事業所番号 | 2375000409 |
| 法人名 | (有)中部介護事業所 |
| 事業所名 | 中部介護 アウト・オン・ア・リム |
| 所在地 | 愛知郡東郷町和合牛廻間1-107 |
| 評価機関名 | 愛知県社会福祉協議会施設福祉部 |
| 所在地 | 愛知県名古屋市中区丸の内2-4-7 |
| 訪問調査日 | 平成19年8月21日 |

【情報提供票より】(平成19年 8月 8日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-------------|---------------------|------|
| 開設年月日 | 平成16年 2月 1日 | | |
| ユニット数 | 1ユニット | 利用定員数計 | 9人 |
| 職員数 | 11人 | 常勤 5人, 非常勤 4人, 常勤換算 | 5.2人 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|--------|------|-----|
| 建物構造 | 木造 造り | | |
| | 2 階建ての | ~1,2 | 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|-----------------|------------------|------------|----------|
| 家賃(平均月額) | 45,000円 | その他の経費(月額) | 円 |
| 敷金 | 有(円) | 無 | |
| 保証金の有無(入居一時金含む) | 有(500,000円) 無 | 有りの場合償却の有無 | 有 / 無 |
| 食材料費 | 朝食 | 300円 | 昼食 500円 |
| | 夕食 | 500円 | おやつ 200円 |
| | または1日当たり | | 円 |

(4) 利用者の概要(8月 8日現在)

| | | | |
|-------|----------|--------|--------|
| 利用者人数 | 9名 | 男性 1名 | 女性 8名 |
| 要介護1 | 1名 | 要介護2 | 4名 |
| 要介護3 | 1名 | 要介護4 | 3名 |
| 要介護5 | 0名 | 要支援 | 0名 |
| 年齢 | 平均 81.7歳 | 最低 70歳 | 最高 93歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|----------------------|
| 協力医療機関名 | やまクリニック、おりど病院、ふじはし歯科 |
|---------|----------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者は大型老人施設の現場で働いた経験をふまえて、少人数のお年寄りと身近で接していきたいとの熱い思いからグループホームを立ち上げ、職員の質の向上に熱意を持って指導をしている。外部の研修会に常勤職員、パート職員の区別なく出席させて研鑽をつんでいる。入居者の終末期に向けた方針を早くから考えており、実績もあり家族からの評価も高い。病院と施設のかかりつけ医師と、家族の連携と協力のシステムが出来上がっているため、本人や家族は安心して人生の終末期を施設に委ねることができる。

【重点項目への取組状況】

| | |
|-------|---|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 前回改善点と指摘された玄関の施錠については、十分話し合い、危険回避のため、全職員は入居者の気持ちに添った支援をしている。周辺への理解と協力の働きかけについては、職員の努力で少しずつ深まっており、草花の苗等を貰ったりするなどの交流も増えている。 |
| 重点項目② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 実施に当たって管理者より説明をして、全職員がサービスの向上についての取り組みである事を理解して、意見を出し合い、忌憚のない意見が出されている。 |
| 重点項目③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) |
| | 事業所から生活におけるサービスの支援状況や行事などの報告をして、出席者からの質問には、理解を深めてもらい協力につながる様に説明しているが、活かすところまではいっていない。次回は、災害時の避難訓練についてを話し合う予定である。 |
| 重点項目④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) |
| | 家族の交流会の時に、うちとけた雰囲気の中で忌憚のない意見を出してもらっている。また、家族が施設を訪問した時の会話の中から思いや苦情、不安等をくみ取り、意向に添うように支援しており、家族の気持ちを管理者が十分に受けとめて運営に活かしている。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | 自治会に加入し、一般住民と変わりなく清掃活動への参加や敬老会に招待されて、入居者と共に参加しており、散歩時に挨拶を交す住民も増えている。また、小学生の訪問を受けたり、地域住民がボランティアとしてレクリエーションに協力してもらえるなど関わりが広がっている。 |

2. 評価結果（詳細）

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|------|---|--|----------------------|---|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 「あなたの笑顔・わたしの笑顔 大切に」と理念を掲げて入居者や家族、職員の笑顔が大きな輪でつながって入居者の生活を支援している。 | ○ | さらに、地域との関わりについて、その意義を理念として取り入れることなど職員と話し合う機会をもつなどの取り組みが期待される。 |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 管理者と職員は共有している理念を具体的な介護の場面で実践しており、そのために心身の健康保持と意志の疎通に努めている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 自治会に加入し、一般住民と変わりなく清掃活動や敬老会に招待されて入居者と共に参加している。散歩時に挨拶を交す住民も増えている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 実施に当たって管理者より説明をして、全職員がサービスの向上についての取り組みである事を理解して、意見を出し合い結果を有効活用する姿勢である。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------|------|--|--|----------------------|---|
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 地域住民や行政の職員など幅広い人選のもとグループホームからの報告や参加者からの質問など、サービス向上を目指した話し合いが実施されている。 | | |
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 行政担当者とは連絡を密にして、当グループホームを理解して、支援してもらっており、サービス向上に結びつけている。介護相談事業の受け入れも申し出ている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | 施設全体の暮らしぶりや必要事項を月に1度は郵送している。金銭の預かりはない。 | ○ | 入居者の買い物などのお金の使い方を含めた生活の様子や健康状態、職員の紹介など手書きも含めたきめ細かな報告が期待される。 |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 小旅行時に家族が集う機会を作り、家族の交流を画りながら、打ち解けた雰囲気の中で施設に対する思いを聞いており、運営推進会議の一員として参加頂き、意見をもらい検討している。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員が笑顔で業務に就けるように、不安な気持ちを管理者は受け止め励ましており、夜勤者には素早い支援をして安心感を持てるようにしている。入居者へはダメージを与えない様に配慮して簡単に説明している。 | | |


| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|---|--|----------------------|---|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 常勤やパートの区別なく各種の研修会への参加について日程の調整や研修諸費用の支給など支援しており、研修資料と受講内容を全職員へ閲覧し確認印を押している。その内容は職員とも共有して日々の業務に活かしている。職員会議は随時行っている。 | ○ | その日の出勤者で随時職員会議を行っているが、研修会の報告も含めて全体で職員会議をする定例日を設置するなどの取り組みと、会議録を保存するなどの検討が期待される。 |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同じ町の同業者の管理者と月に1回は話し合いを持っており、情報交換をして互いの施設運営に活かしている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居予定者から希望があれば、体験利用も受け入れており、併設のデイサービス利用で馴染みになった方がグループホームへ入居となったり、入居予定者に合わせて工夫している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 人生の先輩として生活上の技や知恵を教えてもらったり、職員が落ち込んでいると笑顔で励ましてもらうなど支えあう関係である。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|------|---|--|----------------------|-----------------------------------|
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人ひとりのその日その時の気持ちに寄り添い、受け止めて見守りながら入居者の思いや希望を把握している。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 職員全員で日頃の入居者の様子の記録とアセスメントを基に話し合い、計画案を入居者た家族等に示して要望を組み入れて、介護計画を作成している。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 入居者の状態の変化に職員が気づいた時や本人や家族等から新たな要望のあった時には家族等とも話し合い、検討して的確な介護計画に見直している。基本的には3ヶ月の見直しだが、毎月の職員会議でも検討し状況に応じて随時見直しをしている。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 医療機関と連携して精神不安定な入居者を精神科病院に紹介したり、ガンによる終末期を医師の適切な指導を受けて対応して支援をしている。また、併設のデイサービスとの交流に取り組んだり、車で希望に沿って外出している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|---|---|----------------------|-----------------------------------|
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 事業所の協力医師と24時間相談可能な関係であり、きめ細かい指導を受けて不安のない健康管理をしている。月に2回の往診も家族に安心を与えている。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 入居者の病状や医師の判断を受けて、本人や家族と繰り返し話し合っ、職員も含めた関係する者全員が方針を共有して、可能な限り連携して施設で支援している。看護師の採用に取り組んでいる。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 昼食時等は穏やかな雰囲気であり、記録ファイルはドアのある事務室に目立たない様に保管され、各居室の入口に大きなのれんがかけられているのでドアが開いても室内が丸見えにならないようになど工夫している。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 生活のリズムを大事にしながらも散歩や買い物などの希望を聞きながた、波のある入居者の気持ちに添った支援をしている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|------|---|---|----------------------|---|
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 献立は入居者と職員で希望を出し合っただけで決めており、食材の購入は都合の良い人が出かけるなど、食事への楽しみを盛り上げて職員も共に食卓についている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 毎日風呂を沸かして利用者の半数の人に入浴してもらうのを基本としているが希望により毎日入ることも出来、臨機応変の対応をして心身共に良い気持ちになる様に支援している。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 入居者の好きな事に合わせた役割や気晴らしや楽しみのレクリエーションなど、生活に張り合いが持てる様に、家事やカラオケ、体操や手作業など支援している。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 地域の公園への散歩や美容院や菜園での苺やえんどう豆などを収穫したり、買い物に職員が同行して支援している。 | | |
| ○ | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 家族や入居者とも話し合い検討し、危険回避の為に施錠はしているが、管理者や職員の意識としては入居者の気持ちに添った支援を心がけており、単独で外出した時に後方から見守りなどの対応をしている。 | ○ | 現状でも問題はないが、チャイムや地域住民との関わりを深め、見守りなどで対応するなど、施錠をせずに支援できるようさらなる検討が望まれる。 |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|------|---|--|----------------------|--|
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 消防署の指導の基に避難訓練は実施しているが、地域の避難場所や自治会での取り組みについては把握していない。 | ○ | 災害時に地域や自治会の協力が得られる様に地域も巻き込んだ訓練の実施と情報の収集が期待される。 |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事の摂取量は職員の目視で記録し、水分量も職員が確認しているが、食事摂取量の少ない入居者には医師の指導のもと栄養飲料を服用してもらっている。 | ○ | 湯茶を共用空間などに用意して、入居者が自主的に飲む機会を作るなどの働きかけが期待される。 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用空間は、和やかに皆で話を楽しむことができる場所となっている。音や光は不快ではないが臭いが少々気になるときがある。 | ○ | 食べ物の臭いなどがこもらない工夫が期待される。 |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ベッドとカーテンは備品ではあるが、入居者のそれぞれの好みと思われる物品が置かれた居室作りをしている。 | | |

※  は、重点項目。